

牧羊ひろば



台湾基督長老教会台中健行教会 教会学校

いつも台湾宣教のためにお祈りとご支援を感謝いたします。私たちは二〇一八年八月より、台湾で活動を行っています。今回は教会学校、青少年伝道を中心に報告をさせていただきます。始めに台湾の教会における全体的な教会学校、生徒たちの現状について、次に著者（伊藤）が働きに携わっている台中建行長老教会の幼小科と学生科の働きを報告いたします。現在新型コロナウイルスの影響により、活動が流動的になっているため、この一年間、二〇二一年春頃から現在の活動報告が中心になります。

●台湾の教会学校

著者（伊藤）個人が見て来た範囲での報告になります。が、台湾の教会の特徴の一つはとて「教育的」であるということ。学生科ではメンバーたちに毎日のデ

ボーションを推奨しています。またクリスマスなどの大きな集会の前には、伝道へのチャレンジのため、それぞれが教会に誘いたい友達の名前を挙げてみんなで祈っています。また、日本のMEBIGや台湾の青少年伝道に関する組織の研修会も台湾各地、もしくはオンラインでもたれていて、教師たちの研修意欲の高さを感じます。

二つ目は「活動的」であるということです。台湾の学校教育が学力重視型であることから、いくつかの教会では家庭の事情などで塾に行けない家庭の子どもたちのために、学習支援を行っています。

三つめは「生徒たちの奉仕への積極的な参加」です。中高生が主日礼拝の賛美メンバーに加わったり、幼小科の生徒がCSの奏楽、会計の手伝いなどを行っています。（以上の点は「特徴」であり、必ずしもそれが良いという意味ではありません。）

台湾の学校教育、もしくは台湾社会全体の価値観は、学力、学歴重視であると感じています。多くの学生は、小学校から高校まで塾に通っています。日本の場合中学に入ってから部活動が一つの大きな障壁となりますが、台湾の場合は塾が障壁となります。また、日本以上

の少子高齢化社会によって、教会の中も子どもたちの比率が少なくなっています。そのような中で、日本の教会と同様に子どもたちは中学、高校と進学、進級するにつれて、教会から離れて行くという課題があります。

● 幼小科（児童主日学）

台中健行長老教会では、教会学校幼小科は「児童主日学」と言われ、日曜日の午前中に礼拝を行っています。プログラムは、ゲーム、賛美、献金、メッセージの順です。メッセージは教案に基づき、パワーポイントを使い、ゲームなども取り入れながら、全部で40～50分ほどになります。

昨年の5～8月にかけて、新型コロナウイルス



礼拝 幼小科

の影響により、教会に集まっていたのあらゆる集会が禁止されたことから、毎週土曜日の午後、オンラインで30～40分程度の集会を始めました。活動には様々な制限はありましたが、学校もすべて休校、外出もしにくい状況の中で、子どもたちにとってよい時間となったと思います。感謝な事に、普段教会学校から遠ざかっていた子どもたちも、オンラインになってから参加してくれるようになりました。

毎年7、8月は台湾の学校は二か月間の長い夏休みになります。この時期は、各地の塾や習い事教室で子どもたちを集めてのキャンプやイベントが行われます。多くの教会でも「夏令営」と言われる夏季キャンプが毎年行われています。日本のキャンプとの違い宿泊



2019年夏期キャンプ

がなく日帰りで3日ほど行います。私たちの教会でも、例年通り計画をしていましたが、新型コロナウイルスの影響で昨年は中止となりました。今年はぜひ、行えることを願っています。

昨年12月に「小幸福親子聖誕Party」と題しクリスマス会が開かれました。日曜日の礼拝の時間に、礼拝

の他、アップルパイ作り、ゲーム、プレゼント交換などを行いました。子ども達自ら、数か月前から誘いたい自分の友達の名前を挙げ祈り、クリスマス会のチケットを手渡しました。彼らにとって尊い経験となったと思います。また、前日の会場づくりや当日の受付、ゲーム、プレゼント抽選などの手伝いにも加わり、ただ参加するだけではな



クリスマス会 幼小科

く、子どもたち自身も祈って、準備したクリスマス会でした。当日、一人の子どもは自分が誘ったお友達が来る信じて、ずっと玄関で待っていました（結局来ませんでした）。教会員のお孫さんや求道中の方々の子ども達、友人、知人の子どもたちとその家族の方々が参加してくれました。

●学生科（学青家族）

台中健行教会では、「学青家族」という名で中学生から大学生までのスモールグループでの活動を行っています。時間は主に土曜日の夕方と日曜日の礼拝後です。

土曜日の夕方の集会は、まずメンバー全員での祈りで始まります。現在は特に、新型コロナウイルスからの守り、弱さの中にある方々、新しいメンバーが加えられるように祈っています。その後は聖書の学び、人間関係についての学び、料理、など毎回違った内容で行われます。また時には皆で、外にピクニックに行ったりバドミントンやボーリングなどの運動をすることもあります。日曜日の礼拝後には、その週のデボーションからの分かち合いと祈りの時をもっています。

昨年の12月には「学青小組聖誕Party」と題しクリスマス会を行いました。メッセージ、賛美、証、ゲームなどの他に、普段より豪華な食事を用意しました。メンバーたちは、数週間前から参加者のリストを作り、名前を挙げながら祈り、入念な準備やリハーサルを行いました。また、多くの教会の兄弟姉妹も手伝いに加わりました。当日は、メンバーの友人や教師の知人の学生、など多くの参加者が与えられました。感謝。

台湾の学生はテストや宿題が多く、特に進学の時期になるとプレッシャーが大きいと感じます。また、近年は新型コロナウイルスの影響もあり、しばらく教会を離れているメンバーもいます。幼小科、学生科共に、現在のメンバーは多くはありませんが、教師たち



学生科



ピクニック 学生科

と共に、祈りながら、多くの時間や労力を割き、奉仕する姿に私自身もとても感動しました。続けて台湾宣教のために祈り下されば幸いです。

(伊藤 初)